

# 2022年12月期 第一四半期 機関投資家向け決算説明会

---

YCP Holdings (Global) Limited  
2022年5月31日





# アジェンダ

はじめに

2022年12月期 第一四半期 業績

各事業のご紹介：マネジメントサービス事業

各事業のご紹介：プリンシパル投資事業

2022年12月期 業績予想

質疑応答

はじめに

---





YCPグループは、2011年8月創業の株式会社ヤマトキャピタルパートナーズ (現・株式会社YCP Solidiance)にて事業を開始し、日本人以外のプロフェッショナルも積極的に雇用し国際色豊かな組織を実現するため、グループの社名をYCPに改めると共に2013年に香港を拠点とするホールディングス化を実施。世界情勢の変動や東南アジアの台頭を背景に、当社グループの売上収益や人員構成における東南アジアの比重が高まったことで、2021年にハブ拠点として優位性を持つシンガポールに当社 (YCP Holdings (Global) Limited)を設立し、グループ統括機能を設置

## YCPグループ概要

持株会社商号	YCP Holdings (Global) Limited
持株会社住所	3 Fraser Street, DUO Tower #05-21, Singapore
グループ事業	1. マネジメントサービス事業 2. プリンシパル投資事業
グループ設立	2011年8月
持株会社資本金	35,422,430米ドル
グループ代表者	石田 裕樹
グループ社員数*1	プロフェッショナル数: 254名 投資先を含む総社員数: 424名

## グローバル拠点\*2

### アジア (15拠点)



### 欧州

EU: 1名



### 北米

USA: 2名



\*1: 2022年3月31日現在。地域別プロフェッショナル数は、マネジメントサービス部門とオペレーションズ部門の合計人数

\*2: 拠点数は本資料提出日現在の数



# 事業概要及び当社グループの報告セグメント

当社グループはクライアントへ各種経営支援を提供する「マネジメントサービス」と、自己資本によってリスクマネーを提供する「プリンシパル投資」の2つの事業を展開。グローバルネットワークを通じたクロスボーダーでの事業展開、M&Aの専門知識、そしてデジタルトランスフォーメーションへの取り組みの3つを強みに持つ

売上収益の約8割がM&AやDX導入をテーマとした現場常駐型(PMO型)の経営支援。残り2割がデュー・ディリジェンスや戦略提言といった高付加価値サービス



マネジメント  
サービス

経営人材の派遣



実践的なノウハウ・  
知見の提供



プリンシパル  
投資

中小／新興企業に対して自己資金を投下した上で直接的に経営参画。パーソナルケア領域及びペットケア領域を重点領域と定め、それ以外のポートフォリオは戦略投資領域として、3つのセグメントで業績を開示

当社の3つの強み

Cross Border

M&A



Digital  
Transformation

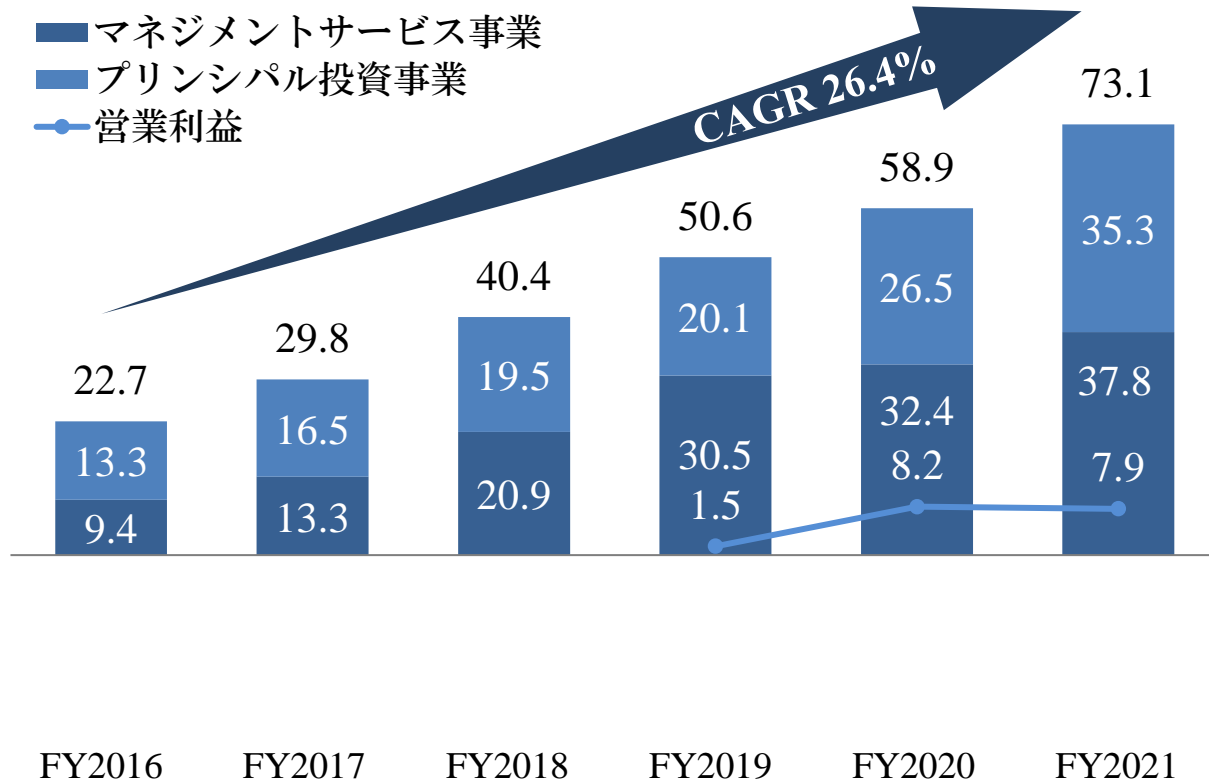


# 過年度の業績推移

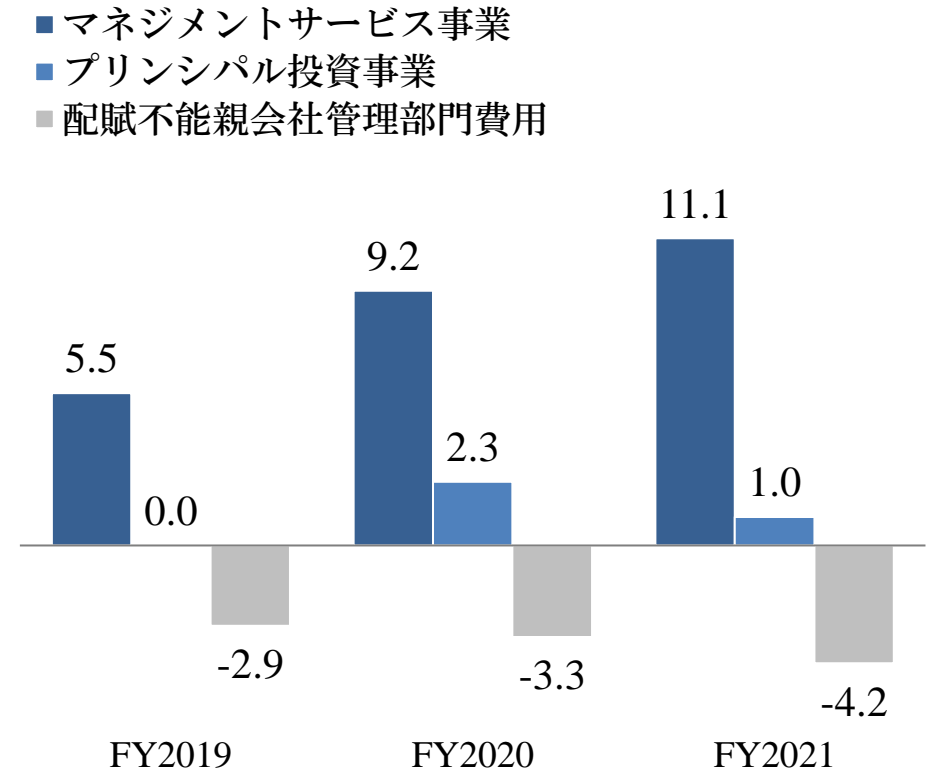
設立10年で売上73.1百万米ドル (89.5億円\*)、営業利益7.9百万米ドル (9.7億円\*) を達成。

直近5カ年の年平均成長率は26.4%

## 売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



## セグメント損益推移 (百万米ドル)



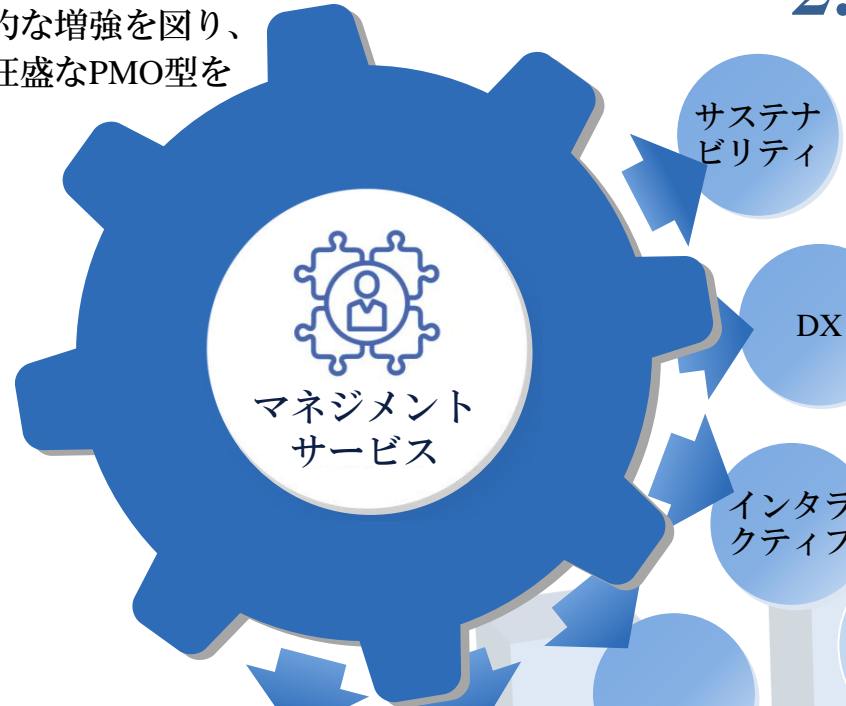
\* 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算



# グループ全体の成長戦略

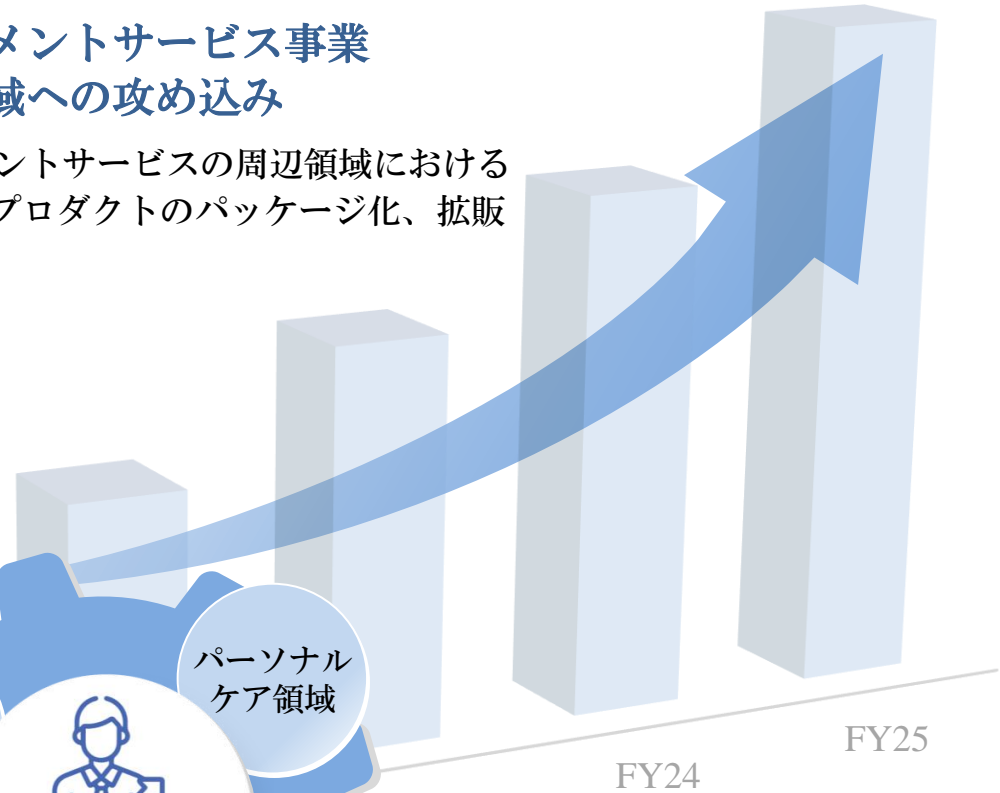
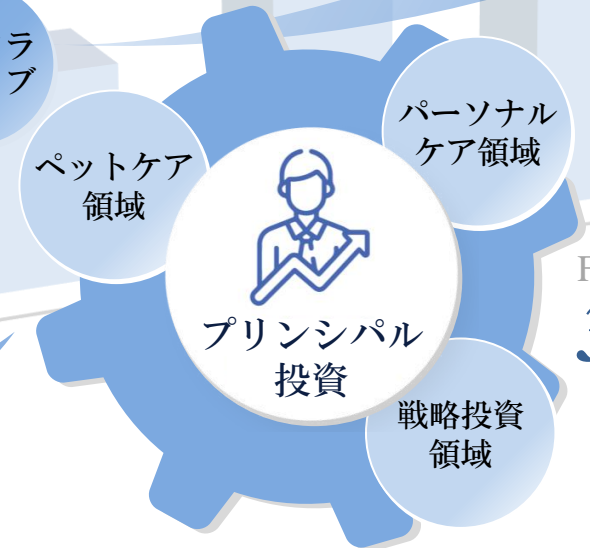
## 1. マネジメントサービス事業のオーガニック成長

人員体制の継続的な増強を図り、国内外で需要の旺盛なPMO型を継続的に獲得



## 2. マネジメントサービス事業 周辺領域への攻め込み

マネジメントサービスの周辺領域におけるB2B向けプロダクトのパッケージ化、拡販



## 3. プリンシパル投資事業によるグループの成長加速

既存事業の強化に加え、DXやM&Aという観点で、アジア全域を対象とした積極的な新規投資シーズの発掘

# 2022年12月期 第一四半期 業績

---





# FY2022 1Q 業績ハイライト



## FY2022 1Q業績

売上収益

**20.2**百万米ドル  
(24.8億円\*)

YoY (増減)

**+21.7%**

予算達成率

**108.4%**

営業利益

**2.2**百万米ドル  
(2.7億円\*)

YoY (増減)

**+35.8%**

予算達成率

**104.0%**

四半期利益

**1.2**百万米ドル  
(1.5億円\*)

YoY (増減)

**+57.6%**

予算達成率

**76.6%**

## ハイライト

- FY2022 1Qでは、売上収益、営業利益、四半期利益いずれにおいても、YoYで大幅な成長を実現
- コア事業のマネジメントサービス事業では、引き続き需要の旺盛なM&A、DX導入におけるPMOニーズを取り込み、国内・国外ともに2桁成長を実現、YoYで+24.3%の増収、+23.1%の増益
- プリンシパル投資事業では、売上収益の拡大に向けた積極投資を継続しYoYで+18.5%の増収を達成。営業利益については、香港におけるオミクロン株流行によるレストラン規制再開で飲食領域が影響を受けたほか、円安による保有株式の評価損(-0.2百万米ドル)も発生し、事業全体ではブレイクイーブンで着地
- 当期利益については、税務負担の大きい子会社で利益及び法人税が拡大した一方で、税務負担の小さい子会社で損失が発生したため、当初計画に比して連結ベースでの実効税率が悪化、予算達成率は76.6%にとどまった

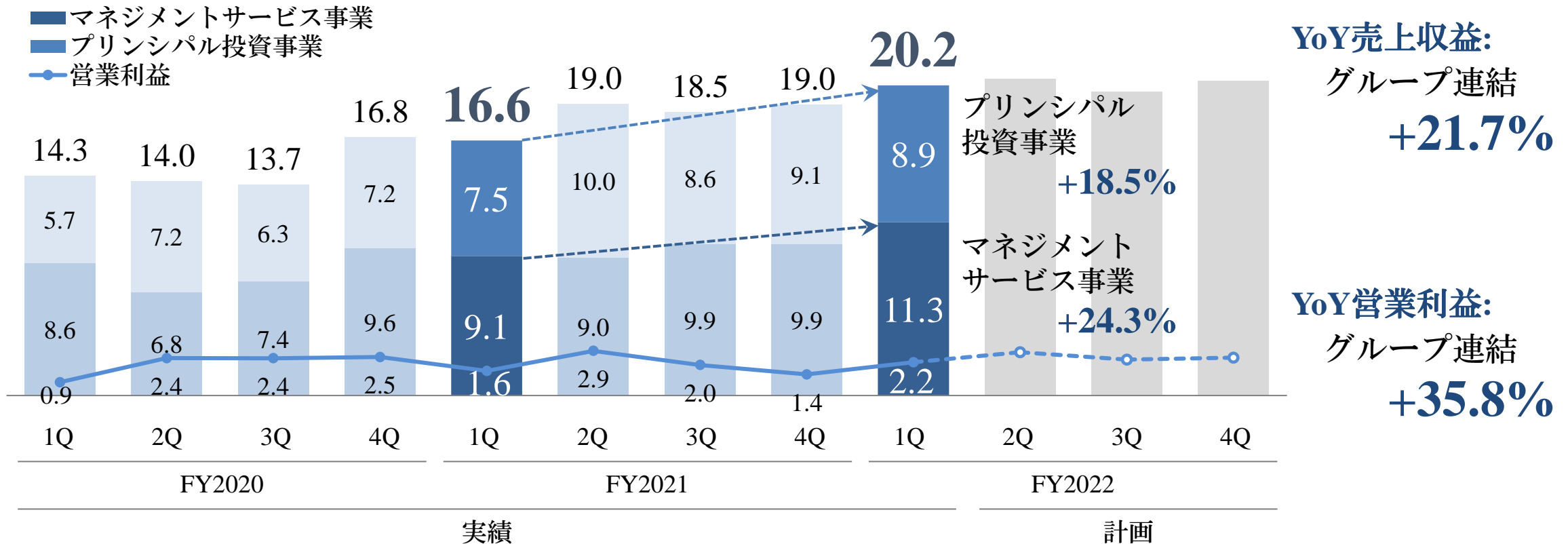
\* 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算

# FY2022 1Q グループ連結業績



FY2022 1Qは売上収益20.2百万米ドル (24.8億円\*)、営業利益2.2百万米ドル (2.7億円\*) を達成。コア事業となるマネジメントサービス事業が大幅な増収増益を達成し、グループ全体の成長を牽引

## 売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



\* 日本円への換算は、1ドル=122.41円(2022年3月31日の為替レート)により計算

# 各事業のご紹介： マネジメントサービス事業

---





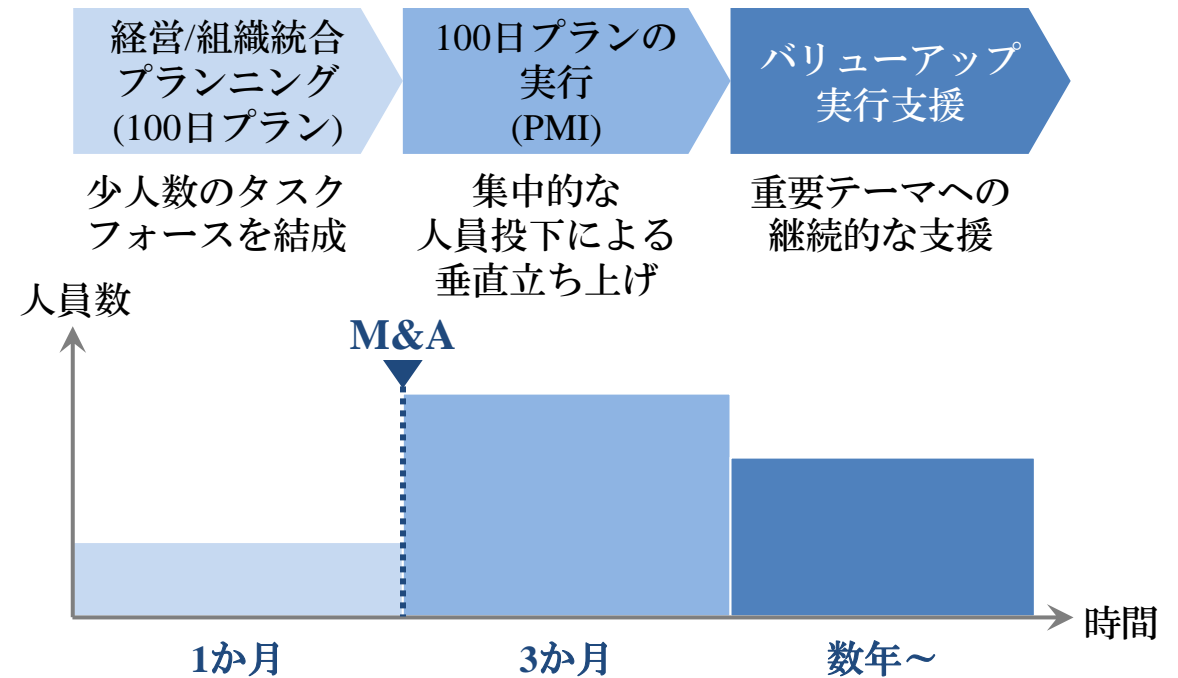
当社グループの100%子会社であるYCP Solidiance International B.V.では、M&AやDX導入をテーマにした現場常駐型 (PMO型) の経営支援サービスをアジア全域で展開し、事業部売上の約8割を占める

## PMO (Project Management Office) とは



M&AやDX導入など大きな企業変革を伴う際に、部門を横断して柔軟に実行支援をサポートする特務組織

## M&AにおけるPMO支援のイメージ



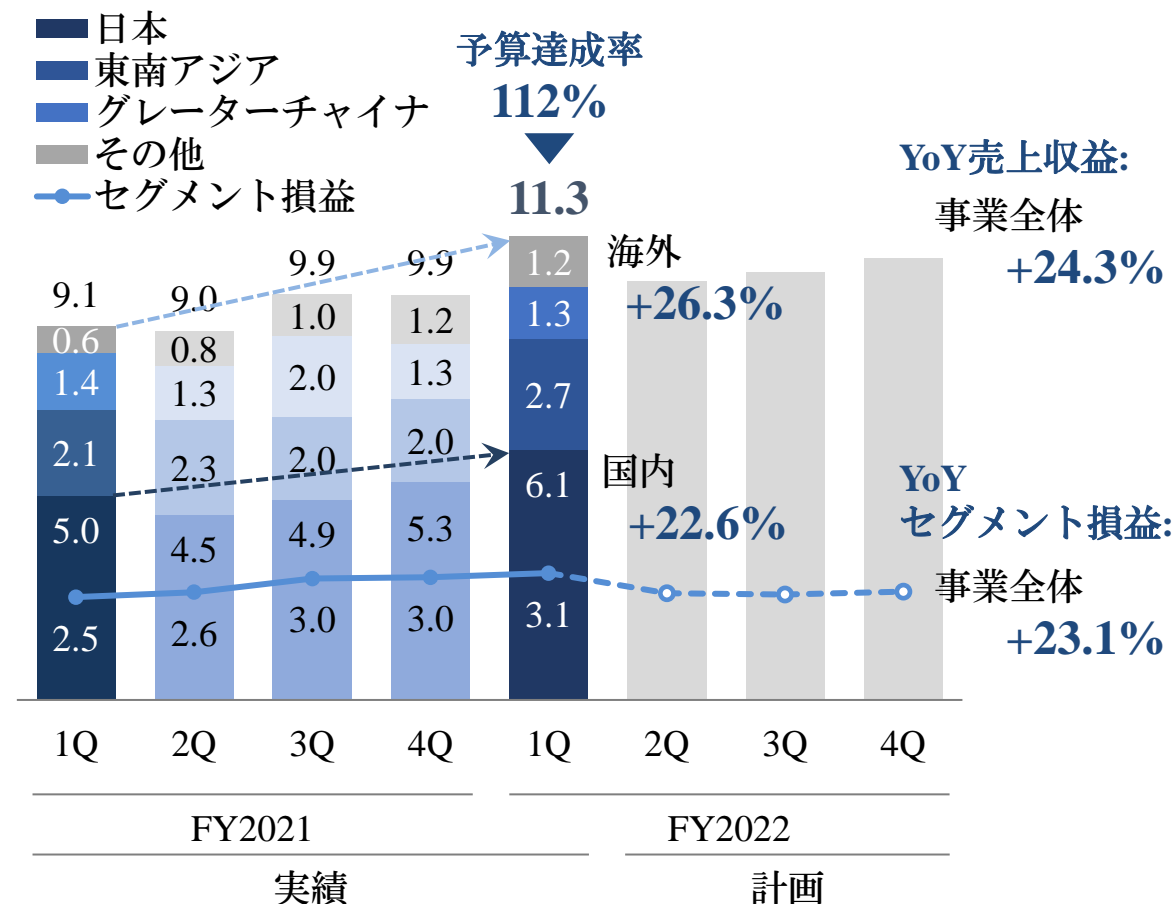
M&A実行の1か月前から支援を開始し、PMOとして長期に渡って常駐型での支援を継続

# マネジメントサービス事業の業績

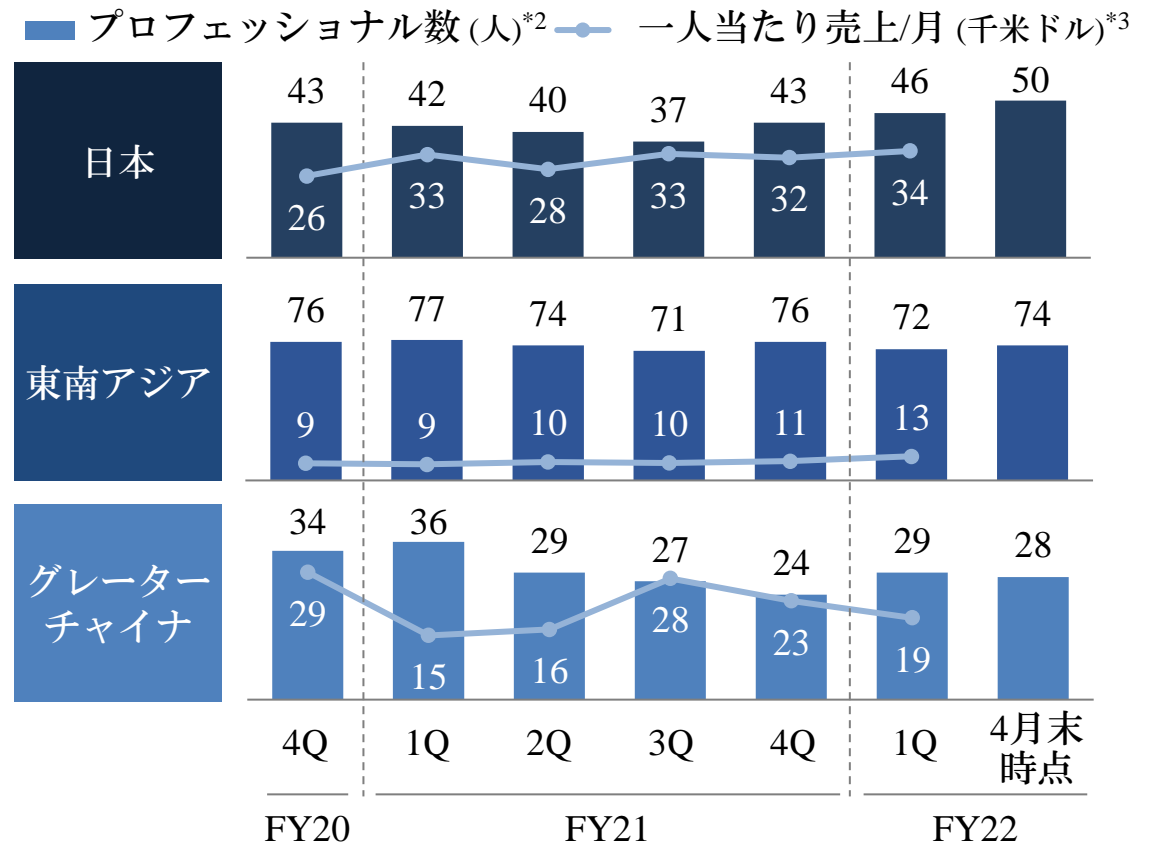


FY2022 1Qは売上収益11.3百万米ドル (13.9億円\*<sup>1</sup>)、セグメント損益3.1百万米ドル (3.8億円\*<sup>1</sup>) を達成。高い収益性を維持し、売上収益の予算達成率は112%と大幅に伸長

## 業績推移 (百万米ドル)



## KPI



\*1: 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算

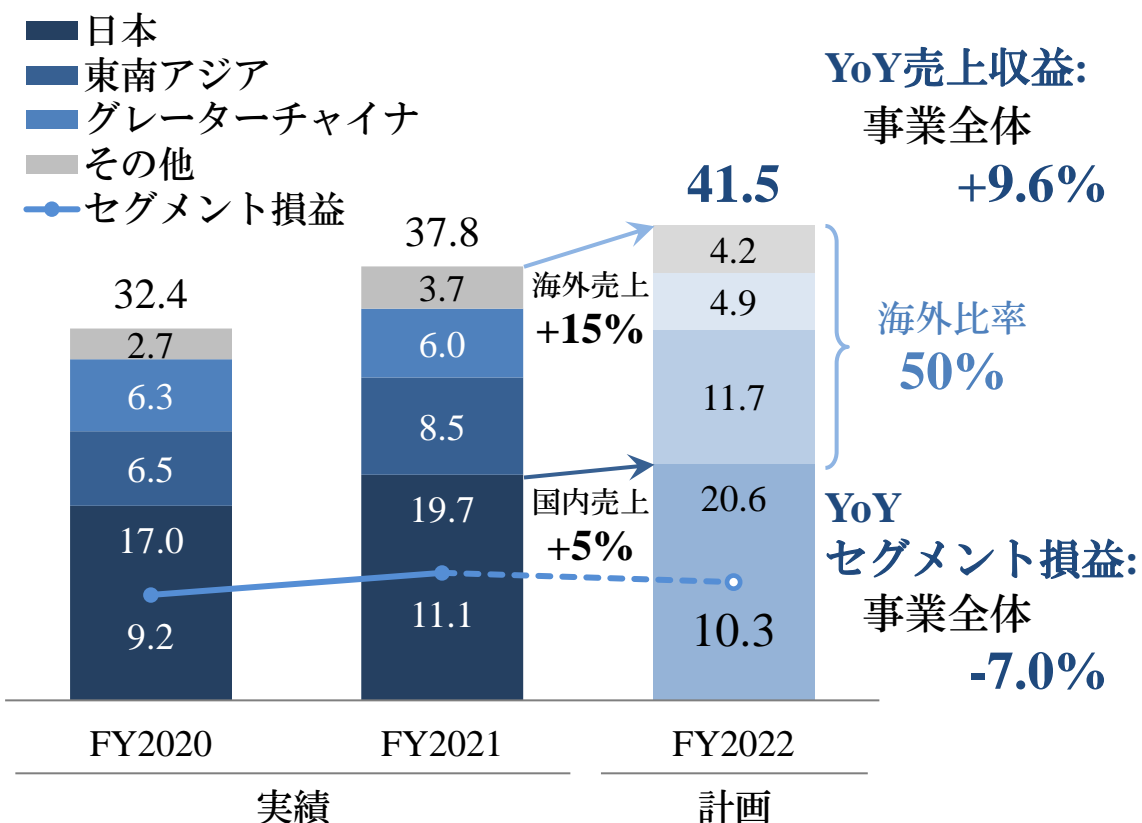
\*2: 各期末時点におけるマネジメントサービス部門の正社員数 (オペレーションズ部門は除く)  
\*3: 各期のマネジメントサービス事業における売上収益を、外注を含む期中の平均人員数 (オペレーションズ部門は除く) で除算した数字

# マネジメントサービス事業 FY2022通期業績予想



FY2022通期では、売上収益41.5百万米ドル (50.8億円\*)、営業利益は10.3百万米ドル (12.6億円\*) を見込む。FY2021が当初予想よりも上振れとなった一方でFY22計画は保守的に見ていることから減益の絵になっているものの、FY2022上期 (2Q) までの進捗を踏まえ、予算の修正も視野にいれる

## FY2022 通期業績予想 (百万米ドル)



## 策定根拠

日本	継続的な新規プロフェッショナル採用による体制強化を予定。引き続き需要の旺盛なPMO型案件を継続的に取り込む
東南アジア	主要クライアントである欧米系/日系企業による東南アジアへの積極投資、パブリックセクター案件のさらなる拡大、並びに単価引き上げを見込む
グレーターチャイナ	経済環境の安定化、採用強化による体制拡充、単価引き上げを見込むものの、FY21に発生した一過性の成功報酬の影響で、減収の想定

\* 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算

# 各事業のご紹介： プリンシパル投資事業

---





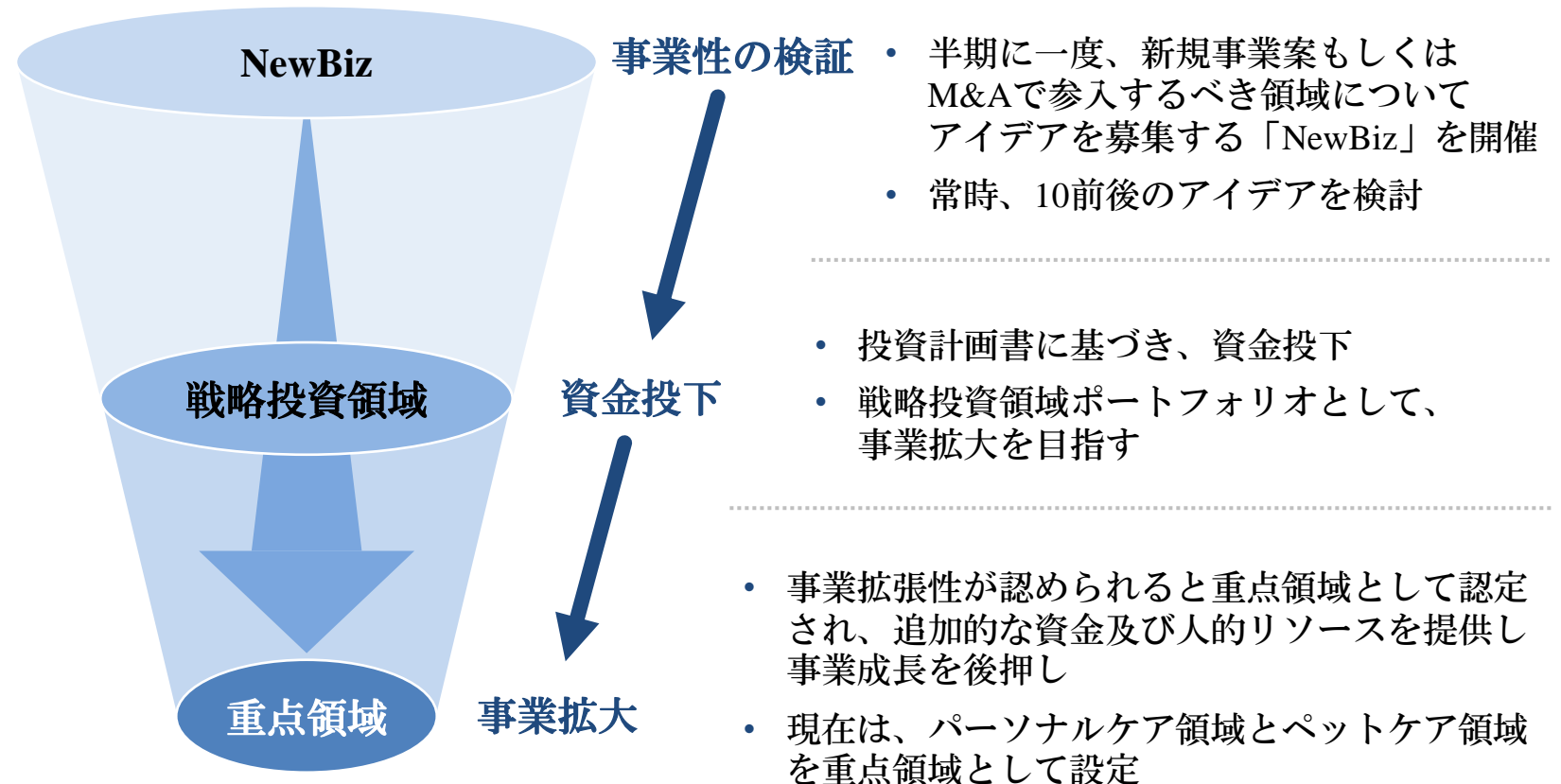
# プリンシパル投資とは

マネジメントサービス事業を通じて培った経営人材のプラットフォームを活用し、中小 / 新興企業に対して自己資金を投下

## 投資要件

1. 売上100百万米ドル以上の事業規模が見込まれる
2. グループの人材プラットフォームを活用しグローバル展開が可能
3. 投資規模が借入を含めて20百万米ドル以下
4. 30%以上のIRR (内部収益率)
5. グループのプロフェッショナルにとって、「Strive for Growth」を実現できる良い学びの機会

## プリンシパル投資事業の立ち上げから拡大までの流れ





# パーソナルケア領域のご紹介



パーソナルケア商材をアジア全域で展開。オンラインで直接販売を行うD2Cモデルを採用し、当社のグローバルプラットフォームを活かし、海外へも積極展開

## 主要ブランド



## 事業戦略



DX



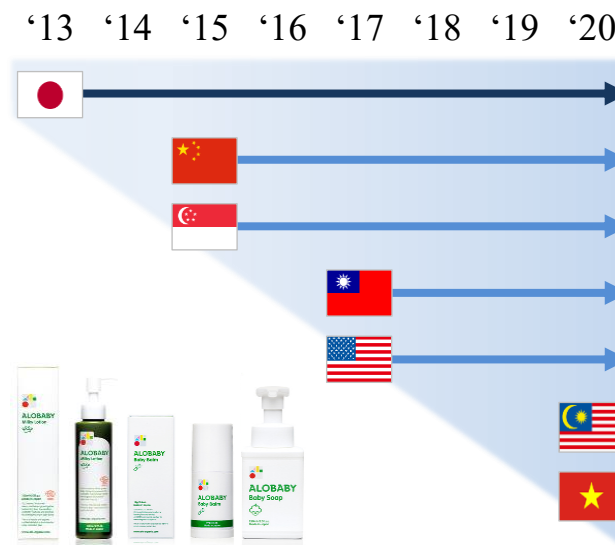
クロスボーダー



### SOLIAのD2Cモデル



### ALOBABYの海外展開の経緯

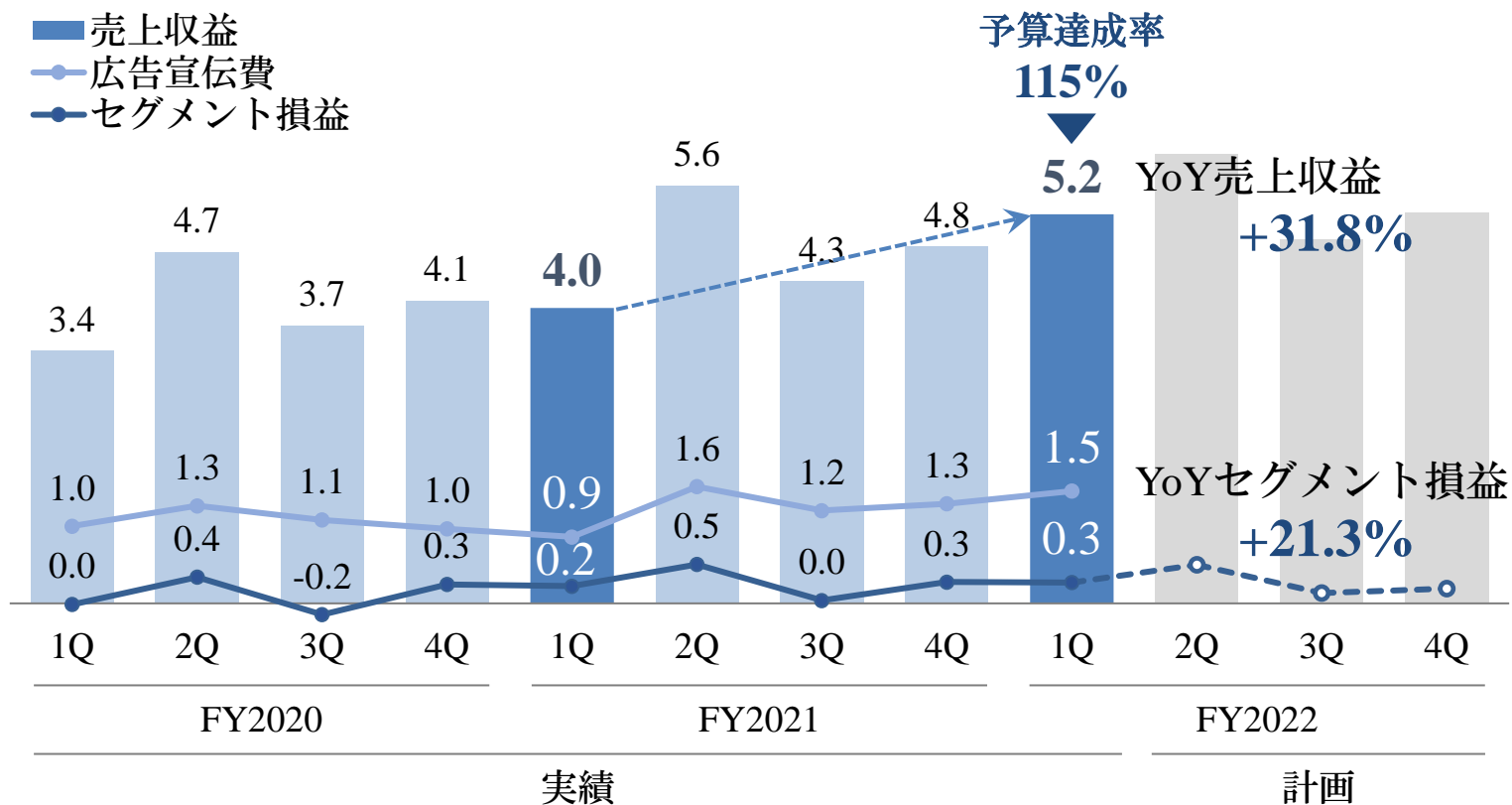


# パーソナルケア領域の業績とFY2022通期業績予想

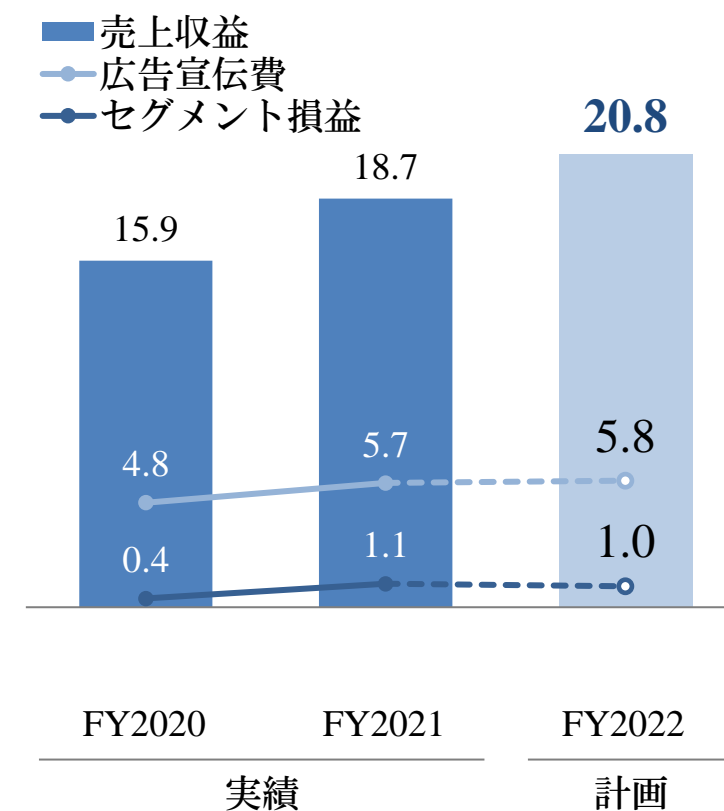


FY2022 1Qは売上収益5.2百万米ドル (6.4億円\*)、セグメント損益0.3百万米ドル (0.3億円\*) を達成。主要ブランドの「ALOBABY」に加え、新ブランド「AMBiQUE」も順調に拡大し、YoY+31.8%と大幅な増収を実現 (為替の影響を除外した円ベースでは、+44.6%の増収)

業績推移 (百万米ドル)



FY2022 通期業績予想 (百万米ドル)



\* 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算



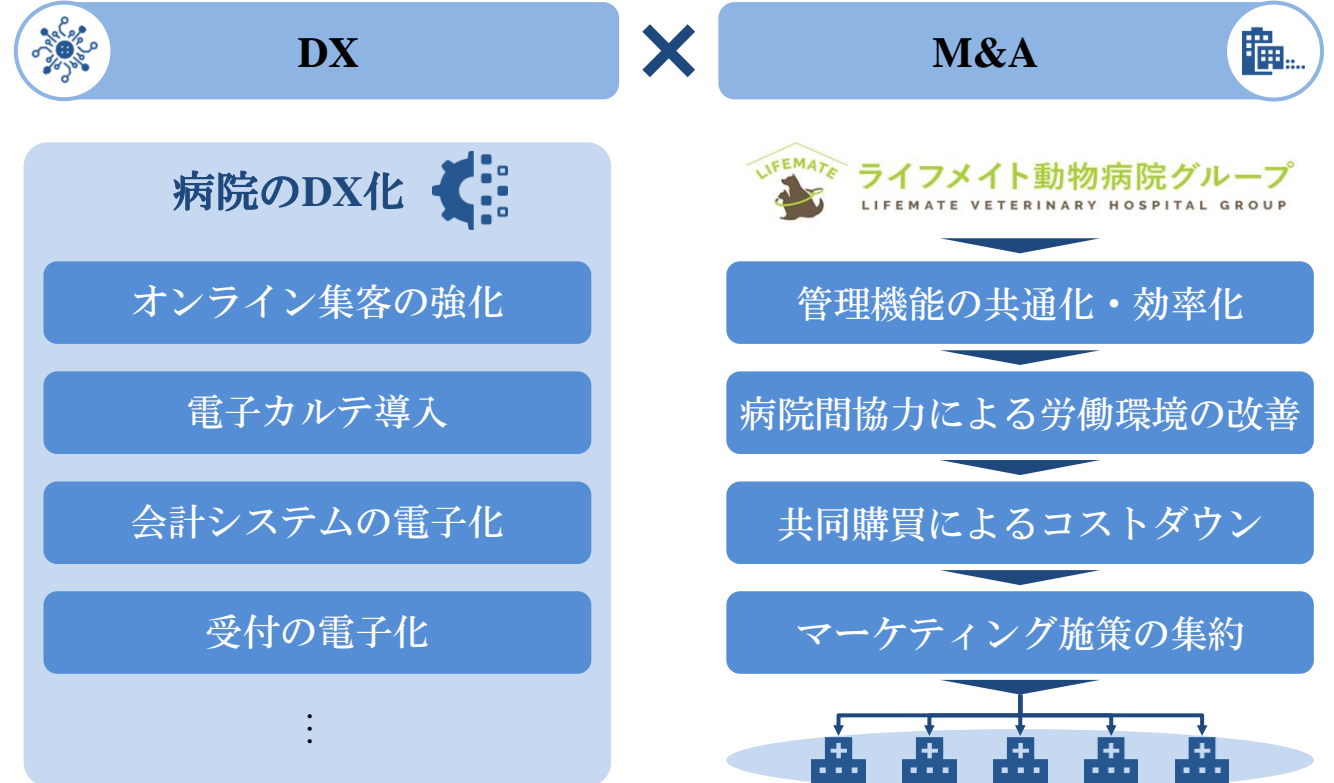
事業承継による複数動物病院をグループ化、および承継先病院のDX化を通じて事業をスケール

## 動物病院の運営



事業承継による複数の動物病院をグループ化。現在は、関東及び北海道において5病院を運営しており、加えて常時複数のM&A案件を検討している

## 事業戦略

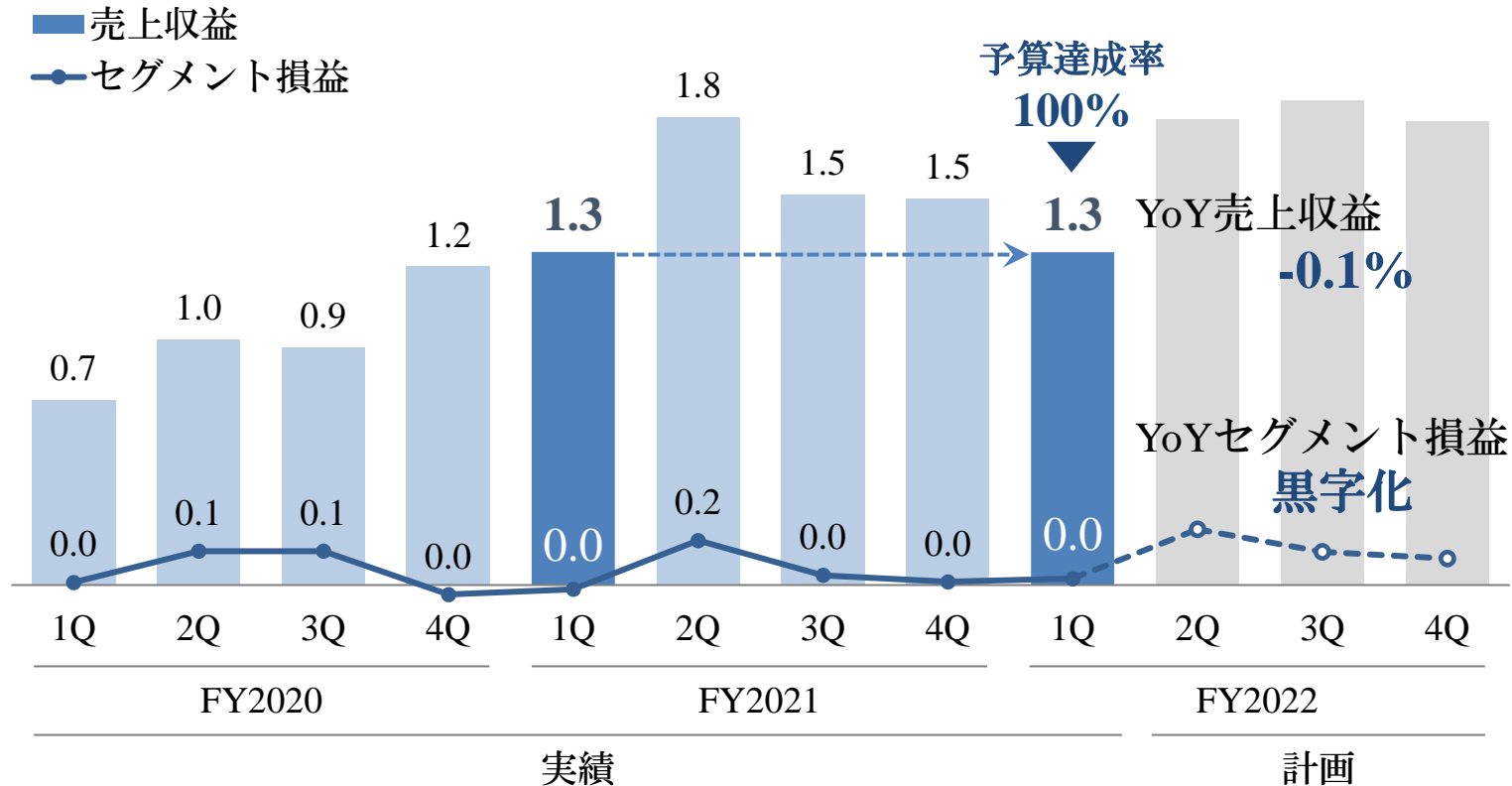


# ペットケア領域の業績とFY2022通期業績予想

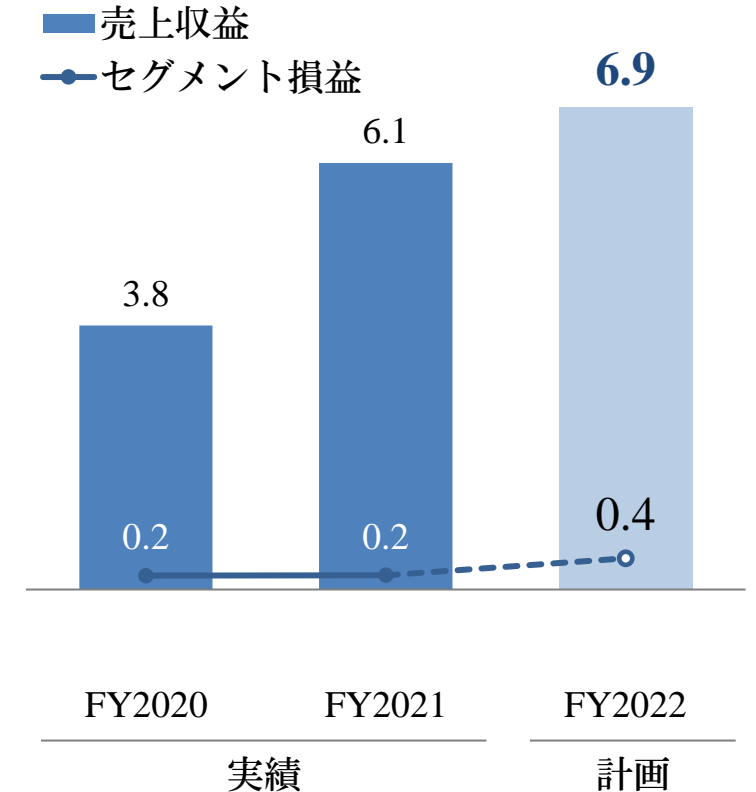


FY2022 1Qは売上収益1.3百万米ドル (1.6億円\*)、セグメント損益0.0百万米ドル (0.0億円\*) で着地。2021年3月に承継した札幌緑ヶ丘動物病院の業績貢献により、日本円ベースではYoY売上収益で+9.6%の増収を達成したものの、円安の影響を受け、米ドルベースでは横ばいとなった

## 業績推移 (百万米ドル)



## FY2022 通期業績予想 (百万米ドル)



\* 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算





# 戦略投資領域のご紹介

将来の重点領域となるべきビジネスシーズに対しても、戦略投資領域として積極的に投資を実行。  
主には、シンガポール及び香港における日本食レストランや、シニア向けサービス等を展開

## 飲食領域



## GO Food



「食を通じて、世界中の人々により多くの笑顔届けたい」という  
ミッションのもと、調理プロセスの最適化、徹底的なオペレーション  
の効率化を行い、ハイクオリティな日本食ブランドを海外へ展開

## シニア領域



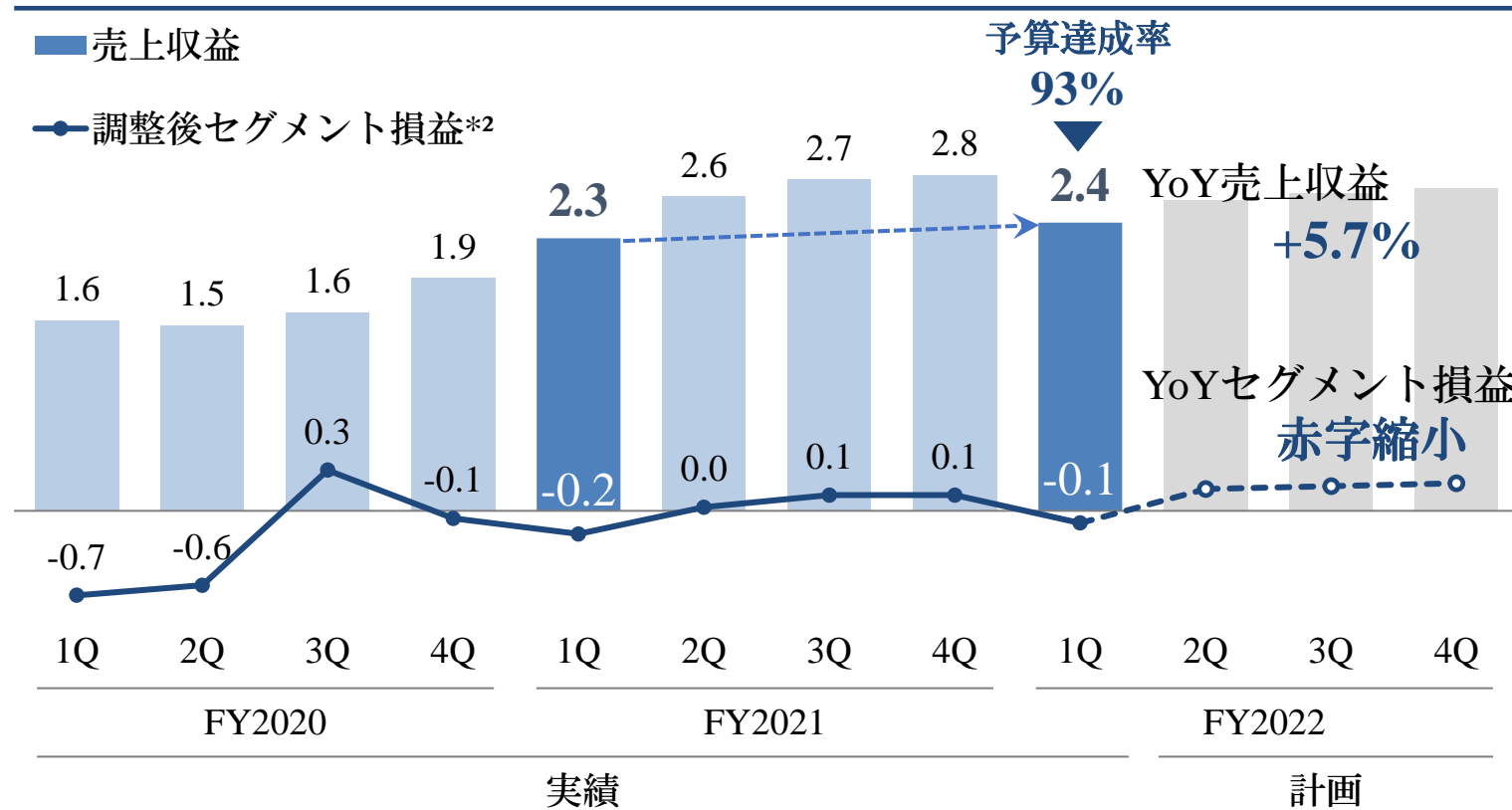
管理不要・後継者不要・宗派不問  
の自動搬送式納骨堂の販売事業を  
展開



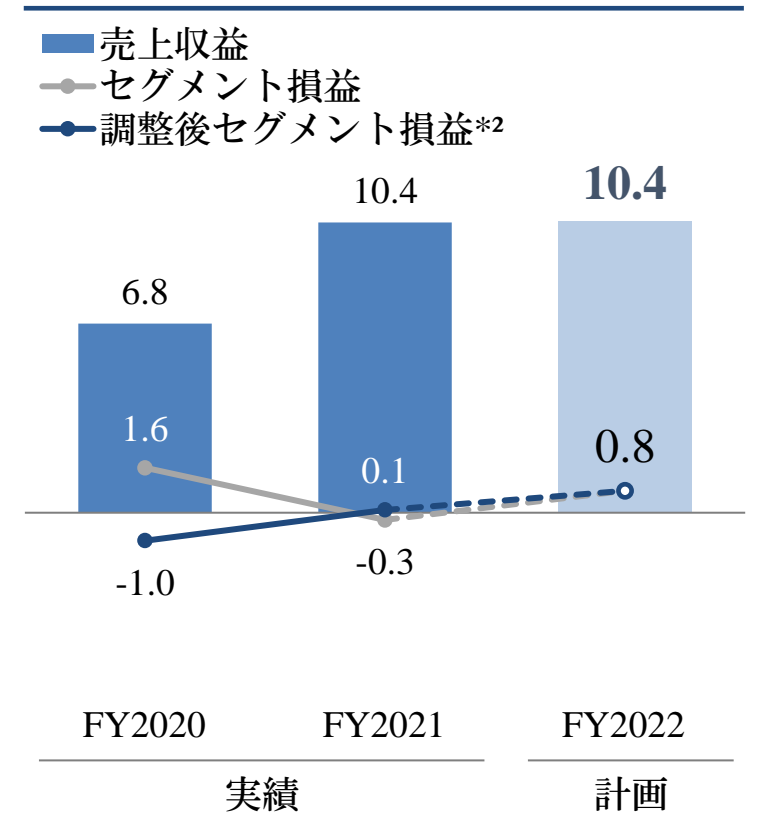
# 戦略投資領域の業績とFY2022通期業績予想

FY2022 1Qは売上収益2.4百万米ドル (2.9億円\*<sup>1</sup>)、調整後セグメント損益\*<sup>2</sup>-0.1百万米ドル (-0.1億円\*<sup>1</sup>) で着地。主要事業となる飲食領域では、香港のオミクロン株流行によるレストラン営業規制の影響を大きく受けFY2022 1Qにて予算達成率は93%の未達となったものの、YoYでは増収を達成し、赤字幅も縮小

### 業績推移 (百万米ドル)



### FY2022 通期業績予想 (百万米ドル)



\*1: 日本円への換算は、1ドル=122.41円(2022年3月31日の為替レート)により計算

\*2: 調整後セグメント損益=子会社及び事業の売却損益や金融資産の評価損益、バーゲン・パーチェスによる利得など、本業以外の活動による一過性の非資金取引を除外したセグメント損益

# 2022年12月期 業績予想

---

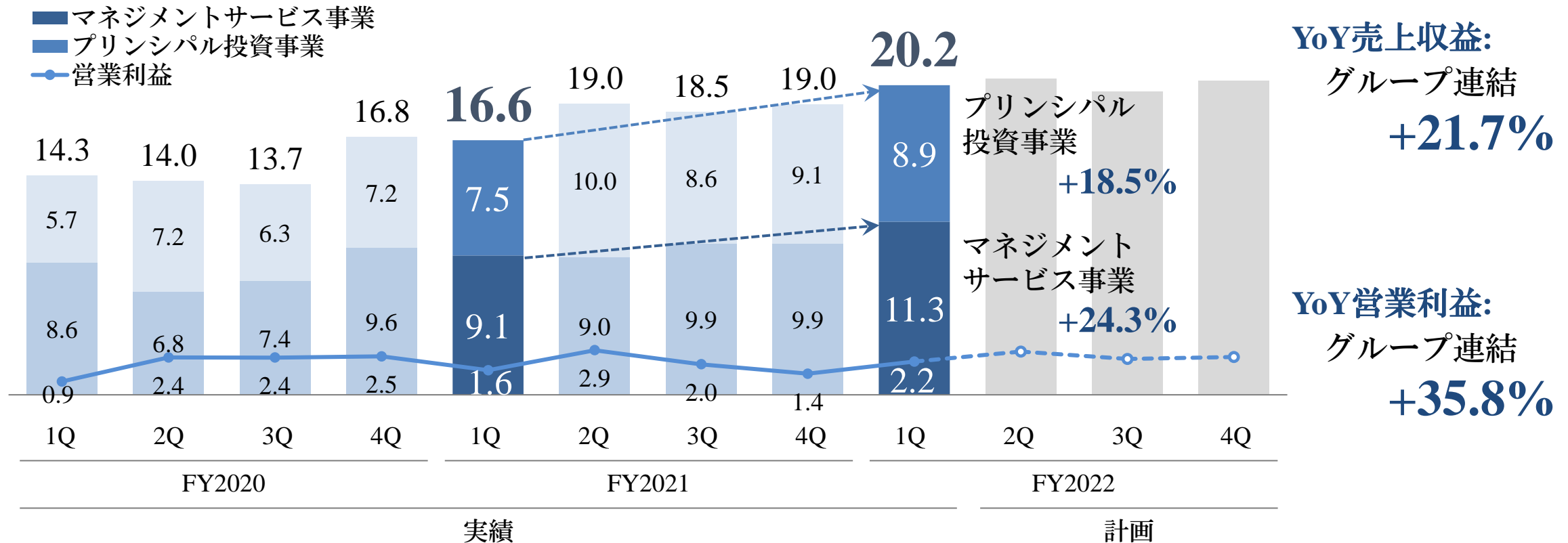




# (再掲) FY2022 1Q グループ連結業績

FY2022 1Qは売上収益20.2百万米ドル (24.8億円\*)、営業利益2.2百万米ドル (2.7億円\*) を達成。コア事業となるマネジメントサービス事業が大幅な増収増益を達成し、グループ全体の成長を牽引

## 売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



\* 日本円への換算は、1ドル=122.41円(2022年3月31日の為替レート)により計算

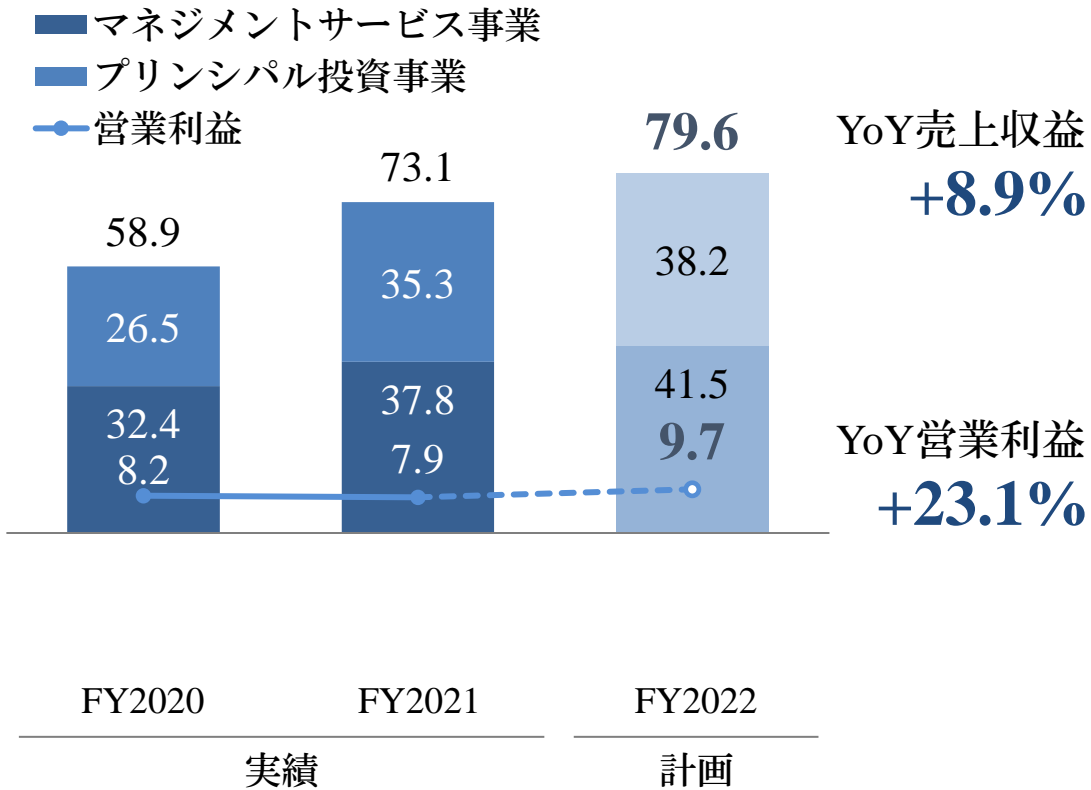




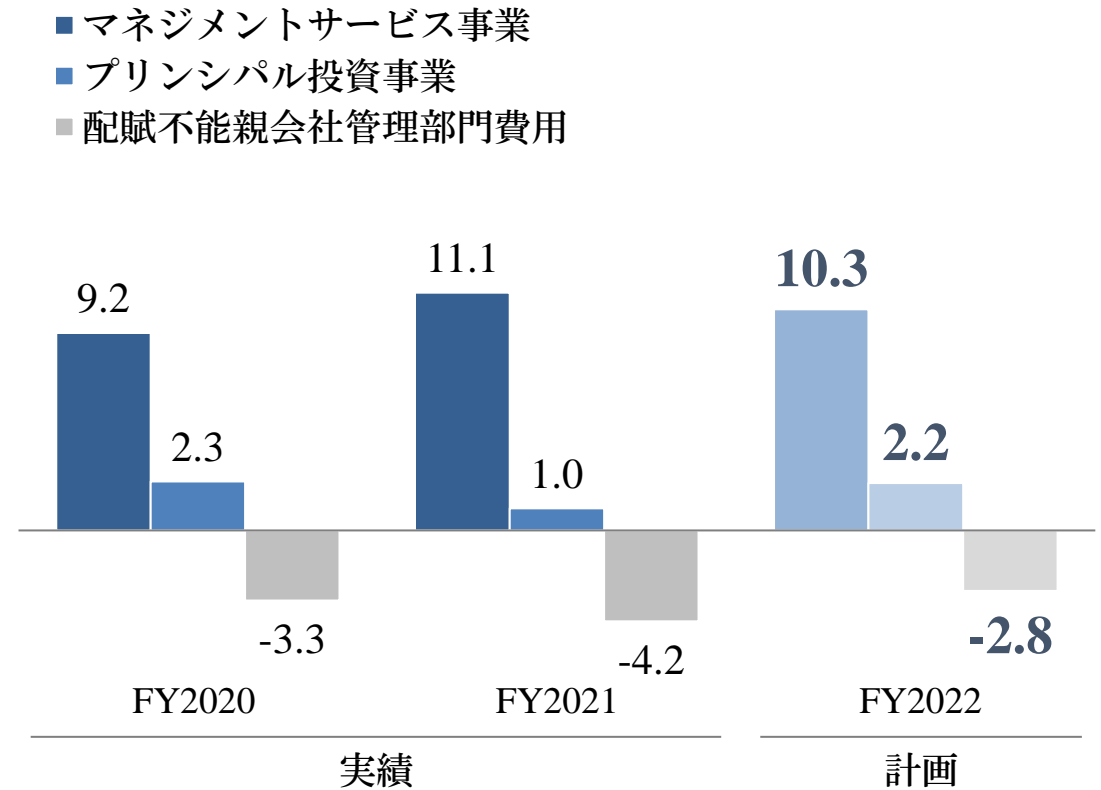
# FY2022通期 グループ連結業績予想

FY2022通期グループ連結業績は、売上収益79.6百万米ドル (97.5億円\*)、営業利益9.7百万米ドル (11.9億円\*)を計画。人材獲得競争の激化を鑑み売上収益は保守的に構えるものの、営業利益はFY2021に発生した一過性のIPOコスト1.2百万米ドルが無くなる影響もあり大幅な増益を見込む

## 売上収益・営業利益 (百万米ドル)



## セグメント損益 (百万米ドル)



\* 日本円への換算は、1ドル = 122.41円 (2022年3月31日の為替レート) により計算

# 質疑応答

---



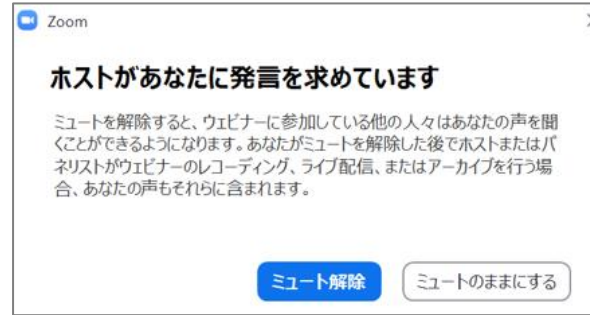


# ご質問方法（オンラインからご参加の方）

## ■ ご発言



「手を上げる」を押下ください

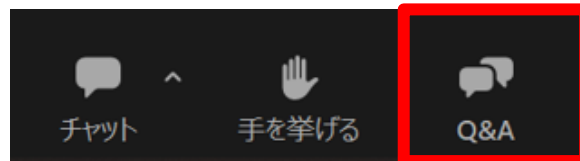


事務局でご指名後、上記画面が表示されましたら「ミュート解除」を押下し、ご発言ください



ご質問終了後は、「手を降ろす」を押下ください

## ■ テキスト



「Q&A」を押下ください



Q&A入力画面が表示されます



質問をご記入の上、「送信」を押下ください



## IRニュースレターのご案内

当社グループの最新IR情報をお届けいたします。

ぜひ、当社ホームページ (<https://ycp.com/ja>) の「IRトップ」ページから  
ご登録ください。

IRトップページへのURLリンク：

<https://ycp.com/ja/investor-relations/ir-top>

**IRニュースレターのご購読はこちらから**

YCP Holdingsの投資家向けレポートや最新情報をお届けします。

氏名

メールアドレス

購読する →

当社グループは、個人情報の保護に配慮しています。詳細は[プライバシーポリシー](#)をご確認ください。



# Appendix

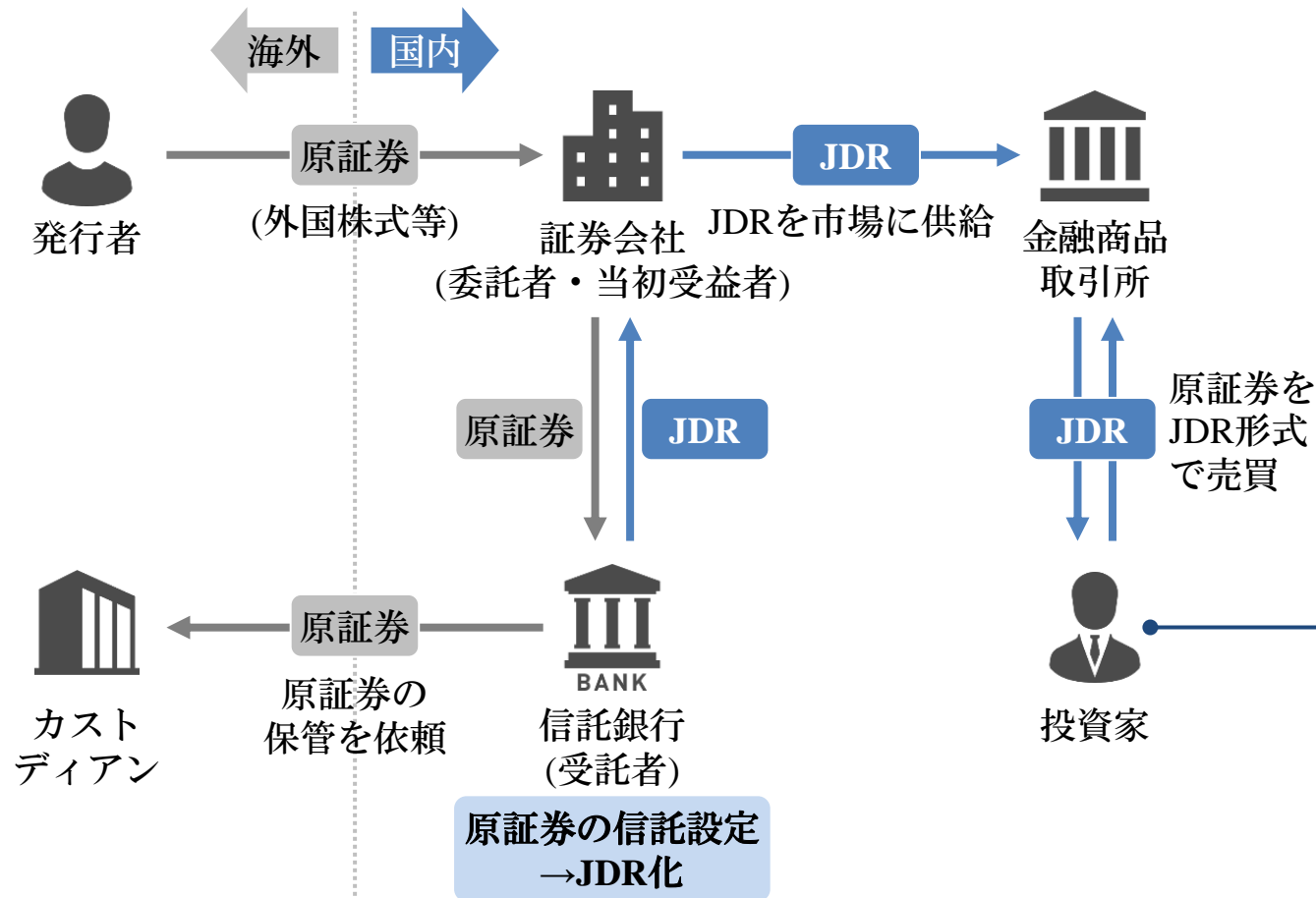
---





# JDR (日本型預託証券) とは

## JDRの発行スキーム\*



## JDRのポイント

取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全国の証券会社を通じて売買可能</li> <li>• 特定口座の取引対象となり、外国証券取引口座の開設も不要</li> <li>• 日本円による決済・分配金受け取り</li> <li>• 税制も国内株式と同様</li> </ul>
株主総会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発行会社の株主はJDR受託者(信託銀行)となるため、JDR投資家は、株主総会には出席できないが、発行会社実施するJDR投資家説明会等で対話が可能</li> </ul>
議決権行使	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JDR投資家は原株式の議決権を直接行使することはできないが、JDR受託者に対して議決権の行使指図を行うことにより、間接的に議決権を行使することが可能</li> </ul>

\*日本取引所グループホームページ掲載のJDRの発行スキーム(例)より引用。 <https://www.jpx.co.jp/equities/listing-on-tse/new/basic/05.html>